

彙報

一 京都哲学会委員の異動

平成七年十月一日付をもって、中畑正志氏（西洋古代哲学史助教として着任）、また平成八年四月一日付をもって、宮島久雄氏（美学美術史学教授として着任）、井上俊氏（社会学教授として着任）、藤田和生氏（心理学助教として着任）が新たに委員に加わられた。

二 京都哲学会公開講演会記事

平成七年度の京都哲学会公開講演会は、十一月三日午後一時半から楽友会館において、左記のごとく行われた。

一、ケインズとラムジー——二つの合理性概念——

京都大学助教 伊藤邦武氏

一、社会的行為理論の展開

龍谷大学教授 中 久郎氏

講演会は数多くの会員の方々の出席を得て盛会であった。また終了後、京大会館において懇親会をもち、多数の会員が講演者とともに討論、歓談の一時を過ごした。

三 外国人学者来訪講演会記事

トロイ・ダスター氏（カリフォルニア大学教授）

「アフアーマティヴ・アクションをめぐるアメリカにおける最近の論争」

平成七年九月二五日 於京大会館

マイケル・フィンケンタール氏（ヘブライ大学教授）

「二つの文化再考」

平成七年一〇月三日 於京都大学文学部

デイヴィッド・リュック氏（ロンドン大学教授）

「中観思想における主張命題、哲学的立場と論争」

平成七年一〇月二日 於京大会館

チャールズ・カンネンギーサー氏（ノートルダム大学名誉教授）

授）

「オリゲネスの神学的業績と遺産」

平成七年一二月一八日 於京大会館

ローランド・ロバートソン氏（ピッツバーグ大学教授）

「グローバリゼーションの理論と言説」

平成八年一月一六日 於京大会館

ベルンハルト・ヴァルデンフェルス氏（ポーフム大学教授）

「現象学の最前線——他なるものへの応答——」

平成八年四月三日 於芝蘭会館

ガストン・グランジュ氏（コレージュ・ド・フランス名誉教授）

授）

「思考とプログラミング」

ジャック・メルロピオンティ氏（パリ・ナンテール大学名誉教授）

授）

「宇宙論的無限」

フルヤ・シナスール氏（バリ第一大学教授）

「カヴァイエスと数学」

平成八年四月一〇日 於芝蘭会館

（以上三講演は同日同会場で行われた）

ヨハネス・ブロンクホルスト氏（ローザンヌ大学教授）

「ことばともの」

平成八年四月二六日 於人文科学研究所

トマス・ロビンソン氏（トロント大学教授）

「プラトン『国家』について」

平成八年五月二一日 於イタリア会館

ルイス・バイエンソン氏（サウスウエスタン・ルイジアナ大

学教授）

「アメリカの記憶のなかの原子爆弾」

平成八年五月二二日 於京都大学文学部博物館

四 京都大学大学院文学研究科・京都大学

文学部（旧哲学科系）講義題目

——平成八年度——

（本学部の大学院化（文学研究科）とそれに伴う学系への再編成が行われたため、本年度より、従来の旧哲学科系諸専攻を、思想文化学系、東洋文献文化学系、行動文化学系、現代文化学系の順に、それぞ

れをまとめて掲載する。）

※……文学部二回生が履修できる学部科目

〔学〕……学部専門科目

〔共〕……大学院科目で学部と共通

無印は、大学院のみの科目

〔思想文化学系〕

系共通科目

講義 教授 伊藤 邦武 哲学講義

教授 内山 勝利 西洋古代哲学史講義

教授 山本 耕平 西洋中世哲学史講義

教授 藪田 坦 西洋近世哲学史講義

教授 藤田 正勝 日本哲学史講義

教授 加藤 尚武 倫理学講義Ⅰ

教授 長谷 正當 宗教学講義

教授 水垣 涉 キリスト教学講義

教授 岩城 見一 美学芸術学講義Ⅰ感性学

教授 佐々木丞平 日本・東洋美術史講義

——日本美術史概説

哲学

講義 特殊 教授 安井 邦夫 自己関係性

環境学・人間学・研究科

〔共〕

日本哲学史

講 義 殊 講 師 大橋 良介 歴史哲学の可能性

” 講 師 花岡 永子 (宗教学専修の欄参照) [共]

演習Ⅰ 教授 藤田 正勝 九鬼周造『人間と実存』

演習Ⅱ 教授 藤田 正勝 日本哲学史の諸問題

講 読 講 師 北野 裕通 西田幾多郎『善の研究』 ※

倫 理 学

講 義 殊 教授 加藤 尚武 日本哲学史 ※

” 助教 水谷 雅彦 コミュニケーション理論と倫理学 [共]

” 総合人 間学部 教授 四日谷敏子 Heideggerとギリシャ的思惟

” 講 師 鷺田 清一 所有と固有 [共]

” 講 師 塚田 敬義 医事法の諸問題 [共]

” 講 師 川本 隆史 ロールズとその影響 [共]

” 講 師 小林 道夫 (哲学専修の欄参照)

演 習 教授 加藤 尚武 Schelling: System des trans-

zendentalen Idealismus [共]

” 教授 加藤 尚武 ヘーゲル哲学研究

” 教授 加藤 尚武 応用倫理学 [学]

” 助教 加藤 尚武 倫理学の諸問題 [共]

叢 報

” 総合人 間学部 教授 有福 孝岳 Kant: Kritik der Urteilskraft

” 総合人 間学部 教授 四日谷敏子 Heidegger: Wegmarken Ⅰ (Von Wesen und Begriff der Physik)

” 人間・ 環境学 研究科 教授 竹市 明弘 (哲学専修の欄参照) [共]

” 講 師 葦木 栄夫 (哲学専修の欄参照) [学]

” 講 師 宗像 恵 (哲学専修の欄参照) [学]

” 宗 教 学 教授 長谷 正當 超越と他者の問題 [共]

” 講 義 殊 教授 水垣 渉 (キリスト教学専修の欄参照)

” 講 師 花岡 永子 心の問題 [共]

” 講 師 尾崎 和彦 北欧神話の終末論 [学]

” 講 師 片柳 栄一 (キリスト教学専修の欄参照) [共]

” 講 師 大橋 良介 (日本哲学史専修の欄参照)

” 教授 長谷 正當 Emmanuel Lévinas (Totalité et Infini) [共]

” 教授 藤田 正勝 (日本哲学史専修の欄参照) [共]

” 助教 芦名 定道 (キリスト教学専修の欄参照)

講師 仲原 孝 Martin Heidegger, Was ist Metaphysik? [共]

講師 田辺 明子 新約聖書の聖餐論 [共]

講師 山形 頼洋 (西洋哲学史専修の欄参照) [共]

講師 宮谷 宣史 (西洋哲学史専修の欄参照) [共]

講師 小林 道夫 (哲学専修の欄参照)

助教授 芦名 定道 John Hick: Disputed Questions in Theology and the Philosophy of Religion [学]

教授 長谷 正當 宗教学の諸問題

講師 勝村 弘也 ヘブライ語文法と旧約聖書物語 [学]

教授 北野 裕通 (日本哲学史専修の欄参照) ※

講師 勝村 弘也 テキスト [共]

キリスト教学

美学美術史学

教授 水垣 涉 キリスト教思想の成立根拠 [共]

教授 佐々木 丞平 円山四条派研究(2) [共]

助教授 芦名 定道 信仰論と宗教言語 [共]

教授 岩城 見一 思弁的美学から実証的美学へ(5) [共]

講師 片柳 栄一 発出と創造—プロテイヌストンとウグステイヌス [共]

教授 宮島 久雄 デザインと抽象美術 [共]

講師 花岡 永子 (宗教学専修の欄参照) [共]

助教授 中村 俊春 ヨーロッパにおけるデューラー [共]

講師 松浦 純 ルターの思惟—成立と展開 [共]

人文研究 曾布川 寛 中国絵画史 [共]

講師 尾崎 和彦 (宗教学専修の欄参照) [学]

総人 篠原 資明 芸術の交通論 [共]

教授 水垣 涉 Athanasius, De incarnatione Verbi Dei [学]

総人 岡田 温司 「品質」と「産業生産」における [共]

助教授 芦名 定道 P. Tillich: Dogmatik, Marburger Vorlesung von 1925 [共]

講師 米澤 有恒 美学史研究 [共]

講師 太田 孝彦 道釈人物画の研究 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

講師 齊藤 孝 仏師通論 [共]

演習Ⅰ 教授 佐々木丞平
助教 宮島久雄
助教授 中村俊春
〔共〕

演習Ⅱ 講師 井面 信行
Kurt Badt, Raumphantasien
und Raumillusionen
〔共〕

講師 島本 流
M. Thévoz, L'académisme et
ses fantasmes, Paris
〔共〕

演習Ⅲ 教授 佐々木丞平
助教 岩城見一
教授 宮島久雄
教授 中村俊春
〔共〕

演習Ⅳ 教授 佐々木丞平
助教 岩城見一
教授 宮島久雄
教授 中村俊春
〔共〕

講 読 講師 加藤 素明
英書講読 (W. Tatarkiewicz,
History of Aesthetics)
〔共〕

人文研 稲本 泰生
和漢書講読
※

人文研 稲本 泰生
和漢書講読
※

〔東洋文献文化学系〕
系共通科目

講 義 教授 内山 俊彦
中国哲学史講義
※

講 義 教授 徳永 宗雄
インド哲学史講義
※

講 義 教授 御牧 克巳
仏教学講義
※

中国哲学史

特殊 教授 内山 俊彦
両漢・魏晉の歴史意識
〔共〕

特殊 教授 池田 秀三
後漢春秋学の研究
〔共〕

人文研 吉川 忠夫
中唐時代の士大夫と宗教
〔共〕

人文研 武田 時昌
中国科学思想史研究試論
〔学〕

講師 中嶋 隆蔵
隋唐思想史―性・命論の諸相と
展開―
〔共〕

演習 教授 内山 俊彦
『墨子問詁』
〔共〕

演習 教授 池田 秀三
『礼記注疏』
〔学〕

演習 教授 西脇 常記
『仏祖統紀』卷三四
〔共〕

人文研 藜谷 邦夫
道教思想資料
〔共〕

講 読 助手 末岡 宏
『漢書芸文志講読』
※

インド哲学史

特殊 教授 徳永 宗雄
古典医学文献に見られる哲学思
想
〔共〕

特殊 講師 長崎 法潤
ジャイナ教研究
〔共〕

特殊 講師 今西 順吉
ヨーガ思想研究
〔共〕

演習 教授 徳永 宗雄
Mahābhārata, Mokṣadharma-
parvan
〔共〕

人文研 井狩 彌介
Yadhiśārautasātra
〔学〕

人文研 藤井 正人
Upaniṣad
〔学〕

講 師 正信 公章
講 授 徳永 宗雄
教授 徳永 宗雄
E. Frauwallner, Geschichte
der indischen Philosophie,
Bd. II ※

新着雑誌掲載論文
〔共〕

仏 教 学

特 殊 教 授 御牧 克己
講 義 教 授 荒牧 典俊
人文研 教授 荒牧 典俊
原始仏教起源論
〔共〕

人文研 教授 井狩 彌介
（インド哲学史専修の欄参照）
〔共〕

講 師 中谷 英明
講 師 田村 智淳
大乗経典の思想
〔共〕

演 習 教 授 御牧 克己
講 師 榎本 文雄
梵語・西蔵語仏典選集
〔共〕

講 義 講 師 船山 徹
Sarvadarśanasamgraha 仏教章
〔学〕

講 義 教 授 御牧 克己
E. Frauwallner, Die Philoso-
phie des Buddhismus 〔学〕

講 義 教 授 御牧 克己
E. Lamotte, Histoire du
buddhisme indien 〔共〕

語 学 助 手 高橋 慶治
講 師 室寺 義仁
チベット語（中級）
チベット語（初級） ※

講 義 教 授 御牧 克己
〔共〕

外国人 ヴェルナー
教師・クノープル
サンスクリット（4時間コ）
※

〔行動文化学系〕

系共通科目

講 義 教 授 清水御代明
心理学講義Ⅰ ※

講 義 教 授 乾 敏郎
心理学講義Ⅱ ※

講 義 教 授 筒井 清忠
社会学講義Ⅰ ※

講 義 教 授 井上 俊
社会学講義Ⅱ ※

特 殊 教 授 清水御代明
概念の表象と発達
〔共〕

講 義 教 授 芋阪 直行
視覚と意識
〔共〕

講 義 教 授 乾 敏郎
高次情報制御論
〔共〕

講 義 助 教 授 藤田 和生
認知の系統発生論
〔共〕

講 義 環 境 学 教 授 江島 義道
視知覚情報論
〔共〕

講 義 環 境 学 教 授 鯨岡 峻
関係発達論
〔共〕

講 義 環 境 学 教 授 山梨 正明
認知言語学研究
〔共〕

講 義 環 境 学 教 授 山梨 正明
認知言語学研究
〔共〕

社会学

講義殊

教授 宝月 誠 社会学方法論の再検討 [共]

総合人
間学部 高橋 三郎 「生成の社会学」の諸問題 [共]

総合人
間学部 高橋 由典 感情と行為 [共]

人文研
助教授 富永 茂樹 コミュニケーションと空間 [共]

東南ア
研教授 加藤 剛 東南アジアの歴史と文化 [共]

講師 大野 道邦 シンポルの社会学的考察 [共]

講師 園田 英弘 西洋化の構造 [共]

講師 田中 紀行 文化社会学の諸問題 [共]

講師 高橋 一郎 近代学校教育制度の存立構造 [共]

演習
講師 原田 隆司 社会調査実習 [共]

講師 吉田 純 社会理論の諸問題 [共]

講師 宝月 誠 社会理論の諸問題 [共]

講師 井上 俊 文化社会学演習 [共]

講師 松田 素二 民族文化の諸問題 [学]

講師 宝月 誠 社会人間学の諸問題 [学]

講師 筒井 清忠 歴史社会学の諸問題 [学]

教授 井上 俊 文化社会学の諸問題 [学]

助教授 松田 素二 社会人間学の視点 [学]

助教授 松田 素二 英書講読 [学]

助手 吉田 純 独書講読(Horst Reimann u. a., Basale Soziologie: Hauptprobleme) [学]

実習 講師 原田 隆司 社会調査実習 [共]

助手 吉田 純 社会調査実習 [共]

社会学(比較社会学) 講義殊 東南ア 研教授 立本 成文 比較社会科学方法論

法科学 教授 棚瀬 孝雄 法社会学

講師 新 陸人 国際比較における「大衆社会化」の視点

演習 併任 加藤 剛 社会動態論演習・スハルトのインドネシア

併任 助教授 落合恵美子 家族と人口の比較社会学

東南ア 研教授 坪内 良博 比較社会学の諸問題

〔現代文化学系〕

系共通科目

講義 教授 内井 惣七 科学哲学入門

※

五 京都大学文学部（哲学系）卒業論文題目

——平成六年三月——

哲 学

科学哲学科学史

「 助教授 伊藤 和行 科学史入門 ※
 基礎演 教授 内井 惣七 論理学演習（内井『真理・証明・計算』）※
 習Ⅰ 助教授 伊藤 和行 独書講読（Hermann v. Helmholtz, *Vorlesung und Reden*）※
 講読Ⅱ

特殊意義

「 教授 内井 惣七 進化論と倫理
 「 助教授 伊藤 和行 ニュートンの科学論
 「 講師 横山 輝雄 社会的認識論 [共]
 「 教授 内井 惣七 自然科学の哲学——確率論の歴史と哲学 [学]
 「 講師 斎藤 光 二十世紀科学史——『生』についての学問史研究に向けて [学]

演習

「 助教授 伊藤 和行 Charles Babbage, Babbage's Calculating Engines [学]
 「 講師 藪木 栄夫 (哲学専修の欄参照) [学]
 「 講師 宗像 恵 (哲学専修の欄参照) [学]
 「 講師 小林 道夫 (哲学専修の欄参照)
 「 講師 美濃 正 Salmon et al. *Introduction to the Philosophy of Science*
 助教授 内井 惣七 科学哲学科学史セミナー [共]
 教授 伊藤 和行

阿部 正幸 カントにおける統覚

追分 晶子 トマス・リードの「常識」の哲学

鞍田 崇 現存在と開示性——ハイデガー『存在と時間』をめぐる一考察——

後藤 慎一郎 前期ワイトゲンシュタインの哲学——『論理哲学論考』の研究——

佐々木 昌子 ヴァイトゲンシュタインの後期哲学における規則の問題

沢崎 壮宏 デカルトにおける物質的事物の存在証明——「第六省察」についての考察——

沢下 賢 後期ワイトゲンシュタインにおける意味使用説について

平田 美佳 ニーチェ『悲劇の誕生』における「ディオニソスのなまもの」について

前村 聡 ハイデガー『存在と時間』における時間性と死

持田 陸 ショーペンハウアーによるカント哲学批判の検討——『意志と表象としての世界』を中心に——

若畑 健 ハイデガー『存在と時間』における Sein の問題

問題

秋山 裕之 ドゥルーズにおける構造としての他者

山田 健二 ウィトゲンシュタインの心理学の哲学——中期の著作を中心に——

期の著作を中心に——

田中 秀樹 西田哲学における生命の問題

西洋哲学史

広瀬 祐也 クザヌスにおける知の可能性の問題

荒木 瑞穂 スピノザにおける人間の本質と三種の認識

植松 俊雄 T・ホッブズの社会哲学——その論理的考察

インド哲学史

村川 晶子 後期ヴェーダ文献における再生の観念

——Jaininīya-Brahmana, Jaininīya-Upanisad-Brahmana を中心に——

心理学

伊藤 雅章 ハトにおける主観的輪郭図形の知覚

岩本 和也 画像の記憶における色彩の役割

梅村 浩之 形状知覚に及ぼす表面テクスチャーの効果

小沢 徳久 趣味が第一印象形成に与える影響

梶井 夏実 仮現運動事象における形態とその時間特性

加藤 亜裕子 ナチュラル・カテゴリーからの再生における

体制化

首藤 明日香 刺激欲求の一致度と二者間の適応との関係

——恋愛と友情の比較——

進藤 彰 インフォーマルグループにおけるリーダーシップ

高田 明 原因帰属の様式における文化・社会的影響

橘 雅弥 幼児期におけるアクセント生成——地域間比較——

較

田中 優子 表面色・光源色の見えに及ぼすコントラストと刺激布置の影響

谷口 史明 記号系列の短期記憶に及ぼす系列分割の効果

前田 恒倫 テクスチャーの視覚弁別 に及ぼす方向勾配の影響

影響

松本 清香 コミュニケーションにおける非言語的行動と

言語的行動との関係について

森崎 礼子 顔の性別判断における視覚の手がかりとその処理過程

処理過程

米山 修 空間構造の整合性が潜在記憶に与える影響

高杉 陽子 文章記憶に及ぼす挿絵の効果

藤井 洋之 明るさと明度の恒常性における照明光の空間勾配の効果

倫理学

中野 博二 サルトル『存在と無』における「価値」の概

念について

馬嶋 裕 ミルの功利主義理論と正義について

美学美術史学

岩元 謹英 パース記号論における芸術解釈の可能性

上木 正博 沖繩宮古島の神話

大原 あづさ マティスの切り絵における裝飾性

大原 嘉豊 達磨寺本仏涅槃図について

松原 知生 シモーネ・マルティニーの《マエスタ》に関する考察

南 潮 仁清作品の分類に関する研究

山見 稜太郎 ディアギレフ・ロシア・バレエ団の芸術

三浦 伸介 エロティシズム、その現在と未来

山本 佳昭 日本料理の「おいしさ」に関する美学的考察

若林 雅哉 アリストテレス『詩学』における逆転 (peri-

peleia) に ついて——Kathaper eiretai (II

1452a23) の解釈を巡って——

小林 桂花 人にとって歌とは何か——奄美の歌掛けの習

俗の分析を中心に——

東陰地 正喜 ボードレールにおける近代性の問題

木谷 仁美 ゲーテの芸術論について

船矢 直子 狩野芳崖の中期の山水画について

社会学

足立 直紀 現代日本の学歴社会

石川 悦子 新聞の投書欄に関する社会学的考察

織田 さやか 初期教育から見る現代日本社会の構造

加藤 禎之 世俗化論の再検討

鎌原 利成 供儀と聖性

北岡 健司 あてこすりゲーム

曾根 美津子 子供の社会化における教師と生徒の相互作用

田中 啓晶 「小さな親切運動」の社会学的考察

友本 忠 ファシズムの社会学的考察

長山 智香子 レイブ・裁判・社会運動

西嶋 浩 アイドルの社会学的研究

橋本 浩史 自然と生活

羽根 俊輔 エスニック・マイノリティとしての沖縄人に

関する考察

宮田 賢 現代日本の自殺と地域性についての考察

森山 敦子 戦後日本の家族観——人工妊娠中絶と母性観

の関係から——

采 翠 裕 戦後における人口移動

大橋 稿二 日本人の結婚観

黒田 友紀 家族と個人主義についての社会学的検討

坂部 晶子 G・H・ミードにおける社会のイメージにつ

いて

鍋倉 聰 ウェーバー国家論の再検討

菱田 栄造 ステイグマの社会史

福田佳子 情報化社会における人間像に関する一考察
吉田努 現代若者のアイデンティティ喪失感に関する一考察——自己発見・自己変革の場としてのコミュニティを中心として——

草谷緑 児童文学にみられる「良心」の社会学的考察

常松淳 言語とコミュニケーション
保原むつみ 現代日本社会に制度化された家父長制の諸形態

宗教学

高橋良一 テイリッヒの「究極的関心」について
藤溪英純 『教行信証』における「三願転入」について
横江和信 デカルト『省察』における、神の存在と形而上学について

仏教学

佐藤直実 梵本大般涅槃經における仏陀の火葬および仏塔について
本多朋隆 『中論』第十七章「業と果報との考察」の研究
田淵淳広 Rig-pa'i khu byug におけるソクチェン思想
小寺正樹 Advaya-vajra 研究——その思想と生涯——

六 京都大学大学院文学研究科（哲学系）

修士課程修了論文題目

——平成六年三月——

倫理学

萬木洋 キェルケゴールの倫理における「主体性」の意味

インド哲学史

野田智子 Āpastamba Śrautasūtra の記述やれと Darśana-pūrnānāsa の研究

西洋哲学史

浅沼光樹 シェリングの同一哲学における自然
沼田敦 イブニング・シーナールの想像力について

宗教学

重松健人 レヴィナスにおける「存在」の問題
仏教学

岩本明美 『大乘莊嚴經論』における止観について
神田一世 再生について—— antarābhava と vijñāna

を中心として——

黄 舒眉 Icaro skya 宗義書の瑜伽行中観自立派章に

ついて

心理学

澤田 忠幸 幼児期における感情表出コントロールの発達

社会学

岡崎 宏樹 聖なるものと共同性

川田 耕 <立て直し>の倫理——江戸後期から明治後

期にかけての通俗道徳——

吉田 竜司 群集行動における「合理性」の位置——釜ヶ

崎第一次暴動を事例として——

美学美術史学

齊藤 茂 ローマ滞在時のラファエッロ研究

實方 葉子 東博本浜松図屏風の考察

西 欣也 アドルノにおける美的なもの

七 博士後期課程学修者氏名(哲学系)

——平成六年三月——

哲学……副島猛、村上俊一

倫理学……江口聡

中国哲学史……白杉悦雄

西洋哲学史……石田あゆみ、小川清次、久保徹、坂下浩司、田

中一馬、橋本武志、蔵田伸雄

宗教学……安藤恵崇、大和裕子、杉村靖彦

キリスト教学……松丸太

心理学……竹本篤史、牧岡省吾

社会学……塚本利幸、寺岡伸悟

八 京都大学文学部(哲学系)卒業論文題目

——平成七年三月——

哲学

今井 靖明 『意識に直接与えられるものについての試論』

におけるベルクソンの自由

竹中 和正 G・ライルにおける傾向としての心について

竹中 利彦 デカルトの自由意志論

藤原 和明 サルトルの『存在と無』について

小山 敦史 非還元的一元論と心的因果性

富田 耕平 J・S・サール『心・脳・科学』における心

身問題をめぐる議論について

花谷 修司 西田幾多郎の『善の研究』における実在につ

いて

西洋哲学史

周藤多紀 魂の複教説をめぐって—Sum. Theol. 1, 76, a. 3, 4を中心として—

武田 佐恵子 ハイデガー『存在と時間』における世界現象の解明

千葉清史 カントにおける経験の客観性

稲岡義朗 フォイエルバッハの宗教批判

インド哲学史

湯田 拓也 『ヴィシュヌ・プラーナ』第5章「クリシュナの伝記」におけるヴィシュヌのアヴァターラ

中国哲学史

山花 哉 夫 王充の死生観

心理学

赤木裕介 メロデーの認知について

榎本茂樹 確率的判断における個人差の検討

菊池 佐江子 自己認知と自尊感情

島倉堅郎 視覚探索の非対称性について

杉尾 武志 メンタルローテーションにおける表象

田中 俊 確率的な概念学習と事前確率との関係

千葉都子 同音異義語におけるブライミング効果

永吉美香 リズムの生成と体制化

西島淳生 画像の認知

橋本武志 集団の意思決定におけるリスク・シフトについて

渡邊 憲子 運動知覚に及ぼす注意の効果

安江美和 13ヵ月時の愛着の型と30ヵ月時の情動制御の関連性

山田 哲造 メンタルイメージの構成と空間認知能力の関連

菅谷 修 航空機における姿勢判断と視覚表示の適合性

倫理学

崎山 強 J・S・ミル功利主義における幸福論

南部 義典 一般予防刑罰理論の倫理学的基礎付け

美学美術史学

生田 ゆき ニコラ・プッサン作『マナを捨うイスラエル人』についての考察

市川 彰 伊藤若冲試論——『旭月鳳凰図』と『老松白鳳図』を中心として——

佐伯 かおる ウィリアム・モリスの初期平面パターンデザインについて

高松 麻里 『沈南蘋画図百幅』考——乾戌午南蘋画にみ

椋 玲子 「モード」に関する一考察——その開かれの可能性について——

徳田 忠大 奥村政信と円山応挙の浮絵の遠近表現について

二見 節子 クアトロチェント、チンクェチェントのフィレンツェにおけるトンド額縁から——Tondo Doniをめぐる考察——

古野 和歌子 世界・作品・歴史——M・ハイデッガーの思索をめぐる——

水谷 嘉伸 太秦広隆寺の宝冠弥勒像について

村上 亜希子 小野竹喬『奥の細道句抄絵』について

坪田 美紀 竹久夢二と世紀末芸術——その精神的関連について——

平川 佳世 ジョットの物語画——アレーナ礼拝堂へ受胎告知——をめぐる

芦谷 美留 写真についての考察

社会学

大津 陽子 文学と社会

勝西 伸之 東アジア社会の形成と変貌に関する社会学的考察

川崎 岳 男性と女性の文化的非対称性について

川瀬 洋道 開発援助の社会学

小倉 隆志 「甘え」の社会学的考察

小林 尚夫 現代日本のコミュニケーションシステム

忍久保 明美 京都における菓子産業の展開

篠田 佳子 メディアとしてのテレビゲーム——ファミコンの10年史を通して——

柴崎 美穂 ろう者社会におけるバイリンガリズムの可能性について

住家 正芳 「死の隠蔽」に関する社会学的考察

高木 淳 アイドルフアンのエスノグラフィ

高橋 麻彌 新宗教におけるシャーマニズム

竹山 葉月 劇場としての社会

永合 孝全 マックス・ウェーバーの宗教的観念の合理化論についての一考察

西田 啓太 パンクの社会学的考察

西村 大志 日本における身体の近代化をめぐる諸相

福光 純子 化粧の社会学的考察

三好 健太郎 近現代日本におけるスポーツ発展の社会的特質

村上 裕二 大衆小説と社会意識

村田 雅子 日本社会におけるボランティア活動

山本 利恵子 観光と環境

河西 裕子 家族の多様化と性別役割分業

高山 龍太郎 「子殺し」に関する新聞報道の分析

日高 正貴 マイノリティ・ナショナリズムと連邦主義の

思想——カナダ・ケベック問題の事例を中心
に——

増田 乾太郎 消費社会におけるホテル産業

宗 教 学

伊藤 慶 郎 シュライエールマッハーの『宗教論』における
超越と内在

大 艸 孝 典 P・ティリッヒにおける存在と啓示について

小 野 曜 日常生活における超人的なものについて

神 田 忠 俊 バタイユ『宗教の理論』における「言説」の
斜断面

林 貴 啓 ベルクソンにおける因果性の観念

金 直 子 『全体性と無限』におけるレヴィナスのエロ
ス論について

樋 口 克 孝 浄土真宗の超越性に関する考察

仏 教 学

戸 塚 直 哉 チベットにおける古典文学について

宮 野 美 子 十難(十四難)無記の研究——Majhinani-
kāya 63, Cūḷa-mānūkyā-sutta を中心とし

て——

神 達 知 純 インド後期密教における身体観

キリスト教 学

森 重 進 一 カルヴァン『キリスト教綱要』における
神認識と自己認識の問題

山 崎 茂 夫 キプリアスにおける「教会の一致」
——『カトリック教会の一致について』を中
心にして——

田 里 友 治 キェルケゴールの「反復」の概念について

九 京都大学大学院文学研究科(哲学系)

修士課程修了論文題目

——平成七年三月——

哲 学

関 水 克 亮 トマス・リードにおける知覚の問題

久 米 晁 ヒュームの『人間本性論』における因果論と
懐疑主義

川 井 博 之 「新音楽」の哲学的考察——アドルノ『新音
楽の哲学』論——

倫 理 学

奥 野 満 里 子 功利主義と人格——バーフィットの人格論と
ヘアの選好功利主義——

インド哲学史

室屋 安孝 Yuktidipika における asakaryavada 批判

浅井 一行 について
ハイデガー『存在と時間』における企投性

仏教

西洋哲学史

菊地 建至 初期ニーチェにおける「知と生」をめぐる
島田 佳代子 トマス・アクイナスにおける感覚的認識と知
性的認識の関係の問題

山 中行 雄 Therigatha と Bhikkhuni-Samyutta との
比較研究
ビック シンティ
ワノンノー
中辺分別論における縁起と空性について

キリスト教

松根 伸治 トマス・アクイナスにおける無知と罪につ
て

今井 尚生 P・ティリッヒにおける「カイロス」と認識
の形而上学——歴史相対主義の克服を巡って

川村 健一郎 物自体と物一般——カント『純粹理性批判』
を中心に——

心理学

徳永 貴士 道徳教育の意義とヘクシスに対する責任
——『ニコマコス倫理学』第三卷第五章一
一四b二三シユナイティオイ・ポースをめぐ
って——

朝倉 暢彦 両眼立体視における表面の再構成過程と脳内
表現

松本 祐史 ニーチェに於るソクラテスの問題
田中 康照 プロタゴラスの相対主義の自己論駁性——プ
ラトン『テアイテトス』一七一A~Cをめぐ
って——

社会学

宗教学

小野 真 前期ハイデガーにおける語り(Reede)の問題

佐藤 哲彦 薬物使用者の生活世界
田野 大輔 ナチス・ドイツの政治文化
筒井 清輝 ナシヨナリズムと近代化の社会学

野崎賢也 近代日本における「農本主義」の社会学的考察

察

美学美術史学

浅谷純子 一四世紀ボローニャ絵画——物語画に見る写

本との関係——

山口洋三 アジア現代美術と『美術館』——福岡市美術館の試み『アジア美術展』にみる『アジア現代美術』——

代美術』——

吉竹彩子 河井寛次郎 初期から中期への変遷をめぐって

十 博士後期課程学修者氏名(哲学系)

——平成七年三月——

哲学……山下和也、竹島尚仁、出口康夫

倫理学……白水土郎、古田裕清

西洋哲学史……大内和正、木下昌巳

宗教学……布施圭司、松本直樹

仏教学……塩見佳正、宮崎泉

美学美術史学……加藤素明、鄭禮京、西田兼

心理学……蘆田宏、牧野圭子

社会学……宇城輝人、小瀬木えりの、北垣徹、沼尻正之、

古川誠、鎌田大資

次号論文予告

ケインズの哲学思想……伊藤邦武

——『確率論』の以前と以後——

種の論理とグローバル・

ヴィレッジの批判……J・W・ハイジック

ガンのヘンリックスにおける

〈本質存在〉と〈現実存在〉……加藤雅人

ソクラテスの徳概念……朴一功

前号目次

建築と自律的芸術……オットー・ペゲラー

真理・個・本質……藤本温

——オウベルニエとアキイナス——

リクールにおける反省哲学と

解釈学……岩田文昭

生と死……

——ベルクソニズムからの寄与——戸島貴代志